## 平成30年10月の大阪森林便り

### 今月の木の話 木材の毒性は他の材料の7分の1

- (1) 解紙おむつ素材 脱プラ 木材由来 自然に分解
- (2) 🗣 北米産丸太 値下がり 9月積み 対日で3か月ぶり
- (3) マスギ、3倍強く 京都府大など、植物性樹脂で加工

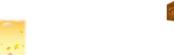




### 今月の木の話

### 木材の毒性は他の材料の7分の1

- ・木材を全く燃えないようにすることは無理ですが、薬剤を使って燃えにくく することはできます。これを難燃処理と言っています。
- ・薬剤による難燃処理は、木材には毒性がないという大きな長所を殺してしまわないよう気を付ける必要があります。
- ・木材から出る煙の毒性は、他の材料の7分の1程度と言われています。 (日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)





# (1) 紙おむつ素材 脱プラ 木材由来 自然に分解 吸水・撥水性 表面処理で両立

- ・ダイワボウレーヨンは、紙おむつに使われるプラスチックの一種、ポリプロピレンを代替できるレーヨンを開発。
- ・木材を主原料とするレーヨンは地中などで自然分解されます。



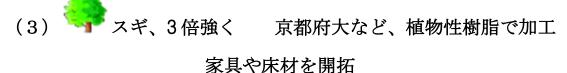
・海洋汚染防止のための「脱プラスチック」の動きに対応します。 (2018年9月5日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

### (2) 北米産丸太 値下がり 9月積み 対日で3か月ぶり

- ・北米産丸太の9月積み日本向け価格交渉が値下げで決着。
- ・原木の供給不足に対する懸念も薄れました。
- 引き下げは3か月ぶり。
- ・前月に比べ1%安くなりました。
- ・供給増で米国の製材品も安くなりました。 (2018年9月13日 日本経済新聞記事から抜粋引用)







- ・京都府立大学と奈良県森林技術センターなどの研究チームが、木材の杉の材質を硬くする技術を開発しました。
- ・杉は軟らかくて軽く、湿気を吸収する特徴があります。
- ・ノルウェーのケボニー社が特許をもち、針葉樹の欧州赤松を硬い広葉樹に似た材質に転換する技術を、杉に応用することにしました。
- ・トウモロコシやサトウキビなどの搾りかすから抽出した液体樹脂に杉を 1~2 日程度浸し、減圧して処理します。その後、約 100 度で乾燥させて材質を転換します。
- ・処理を施した杉は、従来比で1.8倍重くなりました。硬さも従来比で最大で3倍となり、広葉樹と同様の材質に変化していることが確かめられました。

### 全国で伐採適齢期に 戦後大量に植林 資源量拡大続く

- ・戦後大量に全国で植林された杉は、伐採適齢期の樹齢 50~70 年を迎えています。
- ・国内人工林の資源量は、2012年で30億M3まで拡大。
- ・杉の国内供給量も 2016 年時点で 1184M 3 と 4 年間で 2 割増加しました。
- ・木造住宅1戸当たりの床面積は、2017年は2001年に比べて1割減少。
- ・供給量が需要量を上回る「杉余り」が続く可能性が指摘されています。
- ・奈良県産の原木生産量は 1980 年代に年間 50 万M 3 ありましたが、最近では 3 分の 1 に減りました。

#### 大阪森林便り3

(2018年9月13日 日本経済新聞記事から抜粋引用)